

令和5年度 第2回学校運営協議会報告

1 日 時 令和5年12月8日（金） 午前9時から正午まで

2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校
下田小学校多目的室、伊豆下田分校図書・休養室

3 参加者 《運営協議会委員 4名》
原 和秀 氏、村木 康隆 氏、鈴木 千枝 氏 加藤 佳央 氏
《学校職員 1名》
副校長

4 会議次第

(1) 開会・挨拶（図書・休養室）

- ・校長挨拶及び提案（PowerPoint で学校づくりについて説明）
- ・伊豆の国特別支援学校PTA会長挨拶

(2) 学習発表会参観（午前9時20分から10時50分まで）

- ・中学部音楽発表
- ・小学部1組
- ・小学部2組
- ・中学部作業発表

(3) 協議（図書・休養室 午前11時10分から正午）

- ・地域の学校、人、施設等とさらにつながりやかかわりを深め、地域と学校が連携、協働できることについてアイデアを出し合う。
- ・各委員からの指導、助言

5 会議報告（協議会委員からいただいた指導、助言）

- ・現在、熱海や伊東で正社員ではないが、その補助のような形で仕事をするのがニュース等で流れていた。将来について考えると雇用の確保は大きな問題である。バイトや社員の補助のようなことでも、将来の雇用につながっていくとよい。中学部で海岸清掃をしたが、どのようなことをしているのか、どのような仕事なのかを実際に見学するのもよい。
- ・PTAで保護者が先日、進路見学会へ来てくれた。保護者だけでなく生徒が見学へ行くのもよいと思う。
- ・下田の稲梓地区に事業所があるが、コロナでこれまでやっていた地域とのつながりの活動が途絶えている。防災訓練の参加、上原仏教美術館へのイベント参加、地区の小学校とのやきいも大会、マラソン大会の応援など。今後、復活していきたいと考えている。

- ・地区のイベントへ参加していくのがよい。下田は観光地であるので、いろいろなイベントがある。土日のイベントも多いので、保護者へ呼びかけていくことも大事である。地区のマラソン大会などだと「北方領土マラソン」がある。走るのが苦手ならば、下田の爪木崎の「水仙まつり」では、ウォーキングの参加になっている。ウォーキングだけでなくともよいと思う。ゴミ拾いで参加してもよいのではないかな。
 - ・「漁船体験」というものもある。釣り体験ができて、社会福祉協議会で企画をしている。釣り体験というのもよい体験になる。
 - ・「下田市芸術祭」では発表がある。発表でなくても作品展示がある。このようなイベントは広報「しもだ」に載っているなので、募集をみて期間に参加してみてもどうか。
 - ・三島信用金庫の作品展示をさせてもらった。本日の学習発表会のように発表を見てもらうのもよいが、作品を見て子どものことを知ってもらう機会にするのもよい。
 - ・トゥレット症候群のピアニストのドキュメンタリーが先日、テレビでやっていた。障害をもちながらヨーロッパへ渡り、ピアニストとしてやっている。ヨーロッパは教育もみんな一緒、まわりの理解もある。日本では、難しい面がある。下田小学校との交流は点になりやすい。運動会を一緒にやっているのであれば、今日の学習発表会の本番をぜひ小学校の児童にみてもらいたい。点の交流よりはこちらのほうが、お互いの理解が進む。
 - ・中学部の作業発表でカレンダーをいただいた。カレンダーに貼ってある絵や写真が下田の景色が貼ってあるが、生徒の作品の方がよい。生徒の作品をみるのは楽しいし、良いものが多い。カレンダーへ学校名や子どもからのメッセージ、作品などを載せたら、学校のことを知ってもらえるし、宣伝の効果もある。
 - ・保護者が地域とどれだけかかわろうと考えているかというのを知っておきたい。
- 地域の防災訓練やイベントへ行ってみようと思ひ、参加している保護者、子どももいる。一方で地域へでたいが、迷惑をかけてしまうと気を遣ったり、実際、出てみて落ち込んでしまったりすることもある。
- 今後、学校で活動、イベントに参加する。
- PTA事業として参加する。PTA活動も積極的に行っていく必要がある。

6 学校より（今年度の残りの期間、来年度に向けて）

- ・将来へ向けて、地域へでていろいろな経験をしたり、将来のこと（仕事など）を学んだりすることが大切である。
- ・下田市など伊豆は、観光地であるのでたくさんのイベントや催しが開催される。そのようなところへ積極的に学校や家庭で子どもと一緒に出掛けるようにしたい。地域と関わったり知ってもらったりする機会となる。
- ・人が地域と関わるだけでなく、イベントで学校紹介のブースや作業製品の紹介、子どもの図工・美術の作品を展示させていただくことで、学校や子どもの様子を知ってもらう機会となる。